



# 認知症の人や家族の力を活かした ケアマネジメントの推進

---

## 本人と家族を主人公とした ケアサービスに

認知症介護研究・研修東京センター

# この事業のねらい



本人と家族が、自分たちの思いや力を  
「**センター方式シート\***」を使ってプロに伝え  
本人と家族が主人公の  
より良いケアサービスを受けていこう。

**\*センター方式シート**：認知症ケアのための全国共通シート。  
認知症の初期からターミナルまで、  
関係者が共通シートを用いて情報を  
一本化しながら、本人と家族の生活を  
継続的に支えていくための方法。  
国の研究事業で開発。  
2004年から全国のケア関係者に普及が始まっている。  
(詳しくは、参考資料をごらんください)

# 今年度の取り組み

〔2007年  
2月末現在〕

① 「本人・家族」からの情報発信の必要性和センター方式の活かし方を広く伝える

機会の広がり

- ・ 一般向け講座
- ・ 家族介護者教室
- ・ サポーター講座
- ・ プロ向け研修

② 家族がセンター方式を使ってプロと共に作るケアプラン講座の開催

主催者の広がり

- ・ 自治体主催の家族介護者教室
- ・ 認知症の人と家族の会
- ・ 若年期認知症家族の会主催
- ・ サービス事業者主催

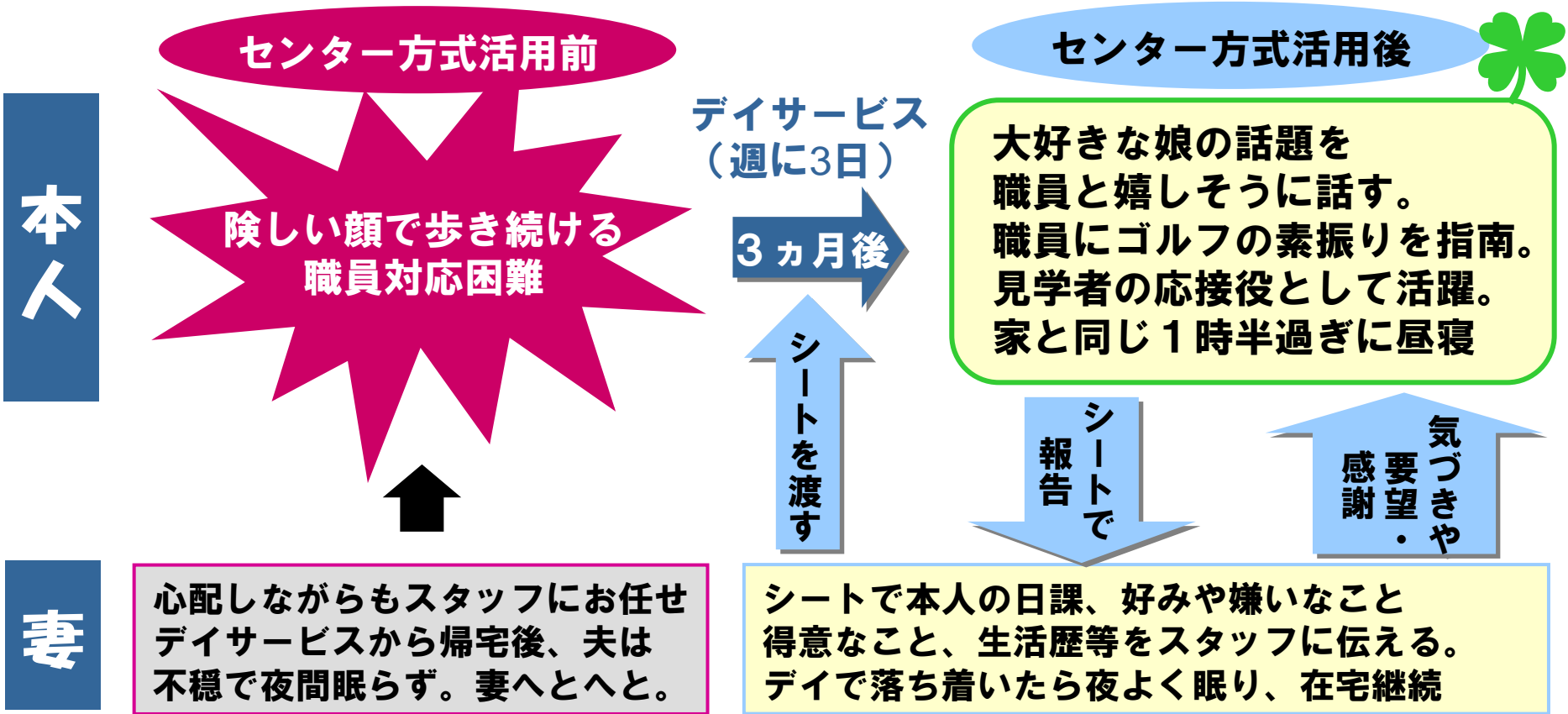
④ 本人自身と家族がセンター方式を使った活用例の収集

③ 本人や家族がセンター方式を使ってプロと共にケアプランを作ることの支援（記入、活用方法）

# 【家族によるシート活用例 1】

家族が記入したシートが手がかかりとなってデイサービスでの本人の激しい症状が減少、精神病院入院を回避できたケース

**本人** 70歳 アルツハイマー型認知症 診断後3年目 在宅で妻と二人暮らし。  
**妻** 68歳 デイサービスを利用しながら、何とか夫を在宅でみたい。  
しかしデイ利用時に激しい症状のため、デイが利用継続に難色。  
周囲は入院をすすめ、妻は限界を感じ始めていた。



# 【家族によるシート活用例 2】

遠方に住む息子が、シートを通じて母の思い、家族のアイディアを施設に伝える。低下一方だった本人に活気が蘇る。おむつ不要に。

**本人 82歳** 脳血管性認知症 診断後7年 一人暮らしの後、施設入居後2年目  
**息子 54歳** 母に会いに来れるのは年数回。会うたびにじっと座ったままで空ろになっていく姿にショック。会った時の母の言葉「便所へ」を書きとめ遠方から息子なりの情報をシートで送り、職員と遠隔協働。互いの喜びに。

センター方式活用前

じっと座ったまま表情うつろ。失禁始まりオムツ対応。職員にとって「反応の少ない」利用者の一人。

3ヵ月後

遠方からシートを送付

センター方式活用後

職員が本人の言葉やサインに注目。トイレ誘導が成功し、おむつのいらぬ暮らしに。本人が自信を取り戻し、日中の活動性、自立度が向上し、会話量が増える。本来のおしゃれで社交的な姿に。職員の自信ややる気も向上。

シートで変化を報告

気づき要望をシートで感謝を

息子の姿にショック受けつつ職員に言い出しづらい。離れて暮らして不安やあきらめが募る。

面会時の「便所に連れてって」という本人の言葉や本人のかつての姿、好み、関わりのアイディアを書いたシートを施設に送る。

本人

息子

# 【本人によるシート活用例】

自分の変化に一人で悩み、受診。起きている変化や心のうちをシートで家族や周囲に伝える。周囲は驚くも、本人とこれからのことを一緒に相談。

**本人** 58歳 アルツハイマー型認知症 診断後1年。妻と子供と3人暮らし。  
**妻** 52歳 夫の変化に戸惑い、なぜ夫が早期退職したか、不安と不満をもっていたが、シートで夫の病気の現実と苦しみ、これからも家族を守っていききたいという気持ちを知る。不安は大きい「一緒に頑張りたい」

## センター方式活用前

本人  
少しずつ混乱やできないことが増えてきたが、家族に言えない。わかってもらいたいが伝わらない。孤独・苛立ち。ひきこもりがち

2ヵ月後

日々の変化・  
思いを記す

## センター方式活用後



郵便物や通帳の管理が難しい、外出して迷うことがある、など、本人ができなくなっている具体的場面や悩み、その中でも夫として父としてしっかりしたい、という思いをシートで吐露。

対話  
増える

見えない  
変化を  
記入

妻

何かおかしい、と思いつつも夫に面と向かって聞けない。些細なトラブルが増え不安。

夫の記録をみて不可解だったことの合点がいく。子供たちにも伝え、日常の中でオープンに話し合えるようになってきた。病院に一緒にいく。

## 今年度の取組みで 見えてきたこと

- 本人や家族は、情報や思い、力を現しきれていない。
- シートを道具に使って伝えると、効率的に伝わり本人や家族が楽になる。いい状態になる。

\*記入や活かし方がうまくいかないケースがある。

\*プロが活用してくれないケースがある。



## 19年度にむけて



- 介護家族向けの実践活用講座を開催
- 記入や活動のためのサポーター活動を展開
- 地域で本人・家族、プロと一緒にシートを活用する継続的な検討会を開催
- インターネット等で活用例を広く伝える

**本人、家族がもっと遠慮せずに  
思いや要望を伝えよう！**

**プロは、もっとよく  
本人・家族の声を聴こう！  
暮らしの工夫を  
もっと教えてもらおう！**



**シートを少しずつ、気軽に使おう！**